第17号
平成26年9月

沖縄高専だより

Okinawa National College of Technology

平成26年度入学式の模様

目　次

1. 校長より
　地域連携の取り組みについて……2
2. 総務主事・教務主事あいさつ ……3
3. 学生主事・寮務主事あいさつ ……4
4. 後援会長・事務部長あいさつ ……5
5. 第１学年主任・第２学年主任より ……6
6. 学科長より …… 7～9
　機械システム工学科・情報通信システム工学科
　メディア情報工学科・生物資源工学科・総合科学科
7. 専攻科長より ……9
8. ５年目を迎えた技術者教育プログラム …… 10
9. 教育福祉推進室より …… 10
10. 図書館・保健室より …… 11
11. 地域連携推進センター活動紹介 …… 12
12. キャリア教育センター活動紹介 …… 12
13. 学生会より …… 13
14. 寮生会より …… 14
15.平成26年度 英語による専門授業を終えて･高校生スピーチグランプリ 2014 … 15
16. 宜野座村文化センターがらまんホールとの連携事業 …… 16
17. 俳句大賞・第８回日本語弁論大会 …… 16
18. 沖縄高専サマースクール 2014 開催 …… 17
19. オープンキャンパス参加者の推移について …… 17
20. 平成 26 年度
　沖縄県高校総体結果について …… 18
　全九州高校総体結果について …… 19
　九州沖縄地区高等専門学校体育大会結果について …… 19
21. 平成 26 年度人事異動について …… 19
22. 平成 26 年度（後期）行事予定表 …… 20

国立 沖縄工業高等専門学校

〒905-2192　沖縄県名護市字辺野古 905 番地
TEL:0980-55-4003　FAX:0980-55-4012
HP:http://www.okinawa-ct.ac.jp

地域連携の取り組みについて

校長　伊東　繁

去る6月28日に沖縄高専オープンキャンパスを開催しました。過去最高者数となる多数の方々が参加され、施設・設備の見学と各学科の授業や実験などを体験していただきました。本校の学生にとりましても、自ら取り組む研究を紹介する体験を通して、日頃の学習の意義を見直し、新たな気づきを得る大変よい機会となっています。

こうした様々な学校行事や地域連携推進センターの活動等を通して、地域住民の皆様や地元企業との交流を深めていくことは、技術者を育成する本校の教育・研究活動にとって大変重要なことであり、日頃からのご支援に感謝しております。

近年、求められる技術革新には工学と医療分野、工学と食品、農業分野など複数の分野を融合させる必要性が増しています。これまで食品加工や化粧品開発、泡盛の製造・販売、特別支援学校の教材開発など多くの共同研究を行ってまいりましたが、やんばる地域特有の天然資源を生かした研究開発にはまだ多くの可能性があります。

本校は機械システム工学科、情報通信システム工学科、メディア情報工学科、生物資源工学科と4つの学科と、4コースからなる専攻科を擁しており、ソフト面とハード面に係る技術者を育成しています。今後一層、地域との連携協力を進め、地域産業の振興と教育・研究活動の充実を図っていきたいと考えております。

さて、初めての試験を終えた新入生、各学年の上級生それぞれに課題を抱え、夏季休業を迎えたことと思います。学生であるうえは勉学に励むことが最優先であることは言うまでもありませんが、机上の学習だけでなく、いま学ぶべきことはたくさんあります。部活動やコンテストへの参加、学生会の活動や地域ボランティア活動、海外留学や海外研修など課外活動にも積極的に参加し、心身を鍛錬し、共に学ぶ仲間とともに、二度とない学生生活を有意義に過ごしてほしいと願っています。

また本校を卒業してのち、技術者としての人生をどう全うしていくのか、そのステージを見極めていくことも学生生活のひとつのテーマです。世界は今、どう動いているのか。自然環境の保全やエネルギー問題、科学技術の取り組み、人々の暮らしはどうなっているのか。高専で過ごす時間とは別の時間が世界には流れているという視点を持てるか否かによって、学生生活の過ごし方は変わってきます。5年ないし7年間という時間はあっという間です。それぞれの課題にしっかりと取り組み、日頃から体調管理と時間管理を心掛けて、無為に過ごすことのないようにしていただきたいと思います。

我々教職員も一丸となって、よりよい教育環境の実現に取り組んでまいります。
今後共本校の教育・研究活動ならびに学校運営にご理解とご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

総務主事あいさつ

総務主事　杉本　和英

昨年度に引き続き総務主事・副校長を拝命いたしました情報通信システム工学科の杉本和英でございます。総務主事として校長を補佐し、本校学校運営の中でも、組織の編成・運営管理，予算計画ならびに執行管理・将来計画・教育研究環境および関連施設の管理・自己点検・評価といった業務にあたっております。

昨年度には、9 月に 10 周年記念行事を行い、国内をはじめ海外の連携協定校からも多くのご列席を賜りまして、無事に執り行うことができました。また、沖縄高専奨学支援基金の設立に向け、多くの保護者の方々ならびに後援会をはじめ、産学連携協力会会員企業の皆様方、教職員各位からも募金のご協力をいただきまして、この場をお借りし御礼申し上げます。多大なるご支援により、既に運用を開始させていただいておりますが、今後 10 年間近く奨学支援ができる目処が立ちました。今後は、学生各位の修学意欲の一層の向上に向けた動機付けに繋げることができる運用を検討して行きたく存じます。また、昨年度には、日本技術者教育認定（JABEE:Japan Accrediation Board for Engineering Education）の中間審査を受審し、教職員一丸となった対応により、無事継続認定を得ることができております。本校が推進する技術者教育が国際基準に則した教育であると認められた大変重要な認定であり、引き続き教育指導に尽力して参りたいと存じます。

加えて、国際社会で活躍するグローバル人材育成に向け、学生のみならず教職員の国際感覚の涵養とコミュニケーションスキルの向上による教育環境・体制の構築にも尽力いたしております。本校と連携協定を締結している海外のポリテク・大学等の高等教育機関（台湾・中国・タイ・シンガポールをはじめ計 11 校を数える）を中心とした短期留学生の受け入れと派遣への取り組みも軌道に乗り、今後も一層の拡大に向けて継続して参りたいと存じます。

知の拠点として地域に貢献することと、世界を牽引する日本のものづくりに貢献すべく、より多くの優秀な学生を輩出できる教育機関となることを目指します。後援会・協力会・教職員の皆様のご協力に支えられながら、諸施策を推進していく所存でございます。今後とも、ご指導ご鞭撻を賜りたく、どうぞよろしくお願い申し上げます。

教務主事あいさつ

教務主事　平山　けい

本年度 5 年目の教務主事・副校長を拝命しております生物資源工学科の平山けいと申します。ご承知のように、沖縄高専は、人々に信頼され開拓精神あふれる技術者の育成により社会の発展に寄与することを理念としている高等教育機関です。本校に入学した学生は、知識を得る為に自ら考え行動さえすれば、それぞれが必要とする知識を享受できる学びや経験の機会を均等に与えられています。沖縄高専の特徴ある授業内での種々の取り組みはもちろんのことですが、本校の授業外の新たな教育的取り組みとして主に以下のようなものが挙げられます。

1．専攻科学生による数学が苦手な 1 年生のための継続的な補講の実施。
2．2 ～ 5 年生の先輩による 1 年生への中間試験対策講座の実施。
3．1 年生を対象とした専門学科教員による「よろず相談会」の実施。
4．沖縄大学院大学の大学院留学生による全学年対象の英語特別講座の定期的な開催。
5．九州・沖縄地区 9 高専連携による長期・短期海外インターンシップ派遣や海外研修会の実施。

また、本校創設時からの特徴として、授業時間外に行う創造研究への取り組みもその一つとして挙げられます。これらの取り組みは学生自らが、自分の意思でその場に出かけること、申し込みをすること、問い合わせをすることが原則です。自ら考えて自分自身の成長のために最初の第 1 歩を踏み出し動かなければ何事も始まりません。本校では、これからも様々な新しい取り組みの機会を設けます。学生の皆さんにはこれらの機会を有効にそして有意義に利用し、多くの経験を積んで欲しいと願います。目標に向かって自ら学ぶ意欲、チャレンジする精神を培うためにもどうぞ自らの意志でまず第一歩を踏み出して下さい。そして、ここ沖縄高専に集った学生の皆さんが一緒に学べることに感謝し、磨き合いをすることで成長していきましょう。沖縄高専卒業時には、これらのチャンスに積極的に取り組むことで得た知識を知恵に変え、社会で活躍する技術者となって旅立っていただきたいと願います。

保護者の皆様におかれましては、日頃本校の教育指導・運営に多大なご理解とご支援を頂き心より感謝申しあげます。学生が将来へ向かうために必要な自立心や向上心を培うためには教員や学校現場だけではなく、ご家庭と保護者の皆様の意識やご協力も必要不可欠です。人として当たり前のことができる、自らの意志で考え行動する、などは技術者としてのみならず人として最低限備えておくべき資質です。将来へ向けて、ご家庭の中でもお子様の学業や生活習慣等に関し、親子で向き合い話し合う機会をぜひともこの夏休みに持っていただきたく存じます。

今後も教務主事として教務係職員・教務委員会教員とともに力を合わせ、教職員一丸となって何が本校学生の教育のために一番大切であるかを考えながら、教育指導・学校運営に携わってまいります。今後とも温かなご支援とご協力をいただけますようどうぞよろしくお願い申し上げます。

学生主事あいさつ

学生主事　伊波　靖

日頃より本校の学生指導や課外活動へのご理解とご支援に感謝申し上げます。

今年度も４月の体育祭を皮切りに高校総体、高校野球選手権沖縄大会への参加や九州沖縄地区高専体育大会への参加など学生の課外活動が活発に行われています。高専体育大会では先行開催されたテニス競技において女子ダブルスが優勝、また弓道競技において男子が個人優勝し８月の全国大会への出場が決まりました。7/19 ～ 7/20 にはその他の９競技が行われます。課外活動に対して派遣費の補助をはじめとして、後援会よりのご支援や、日頃の練習への保護者の方々のご協力、関係教職員の方々に感謝申し上げます。

車両通学に関しましては、４月に交通安全講話を実施し、６月には学生会を中心とした沖縄高専交通安全期間を設定し交通安全啓蒙活動を行って参りました。昨年度は、幸いにして交通死亡事故は発生いたしませんでしたが、入院や手術などを必要とする事故が４件発生しました。これ以外にも軽微な交通事故や交通違反が発生しております。学校でもメール等で学生への交通安全に関しての注意啓蒙を行っておりますが、車両通学をしている学生の保護者におかれましては、ご家庭で交通安全について話し合いを持っていただきますようお願いいたします。学生の生活面に関しましては、学生の携帯電話やスマートフォン等の携帯端末の利用に関して LINE 等の SNS 上におけるいじめや授業中の携帯端末の利用など、いくつかの問題が発生しております。学校としても授業への携帯端末の持ち込みを禁止し、メール等での注意喚起や主事講話での注意などを行っておりますが、ご家庭でも携帯端末の正しい利用に関して話し合いを持っていただきますようお願いいたします。

全ての学生が無事卒業し良き社会人として巣立っていくためにもより良い学校生活の実現に向けて今後とも努力いたしますので、学校へのご支援・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

交通安全講習会

寮務主事あいさつ

寮務主事　成田　誠

沖縄高専も 11 年目を迎え、寮務主事も私で５代目となります。学生寮としては全国屈指の規模であるとともに約半数が全寮制の下で入寮している 1，2 年生ということもあり、学生の自主性を尊重しつつも制御していくことは困難を極めますが、学生寮委員会、寮務係職員、指導員、宿日直にあたる教職員とともに全力を尽くしてまいりますので、よろしくお願い致します。

寮の管理運営、とりわけ寮生活に関わる規則の見直しは寮生の希望・態度によって流動的に改定しております。今年度になってからも新たな規則が制定、そして施行されていくこととなります。１例としまして、学習時間帯における他寮生居室での学習を認めることになりました（許可制、１名限り）。独りよりも友人と学習する方が効率が上がる寮生もいることを勘案してのことです。２つ目の例として、後期より寮規則違反による減点ポイントを基にした処分を行うことです。このような規則ができた理由は、寮規則順守を実行できない寮生が他寮生に迷惑・負担をかけていることが背景にあります。詳細は追って通知させていただきます。

残念なことながら、前期終了時点で寮規則違反による処分が幾つかありました。処分に至らずとも問題は多々発生しております。寮規則順守は勿論、自律・協調など今後社会に出たときに必要なことを学ぶ大切な時間・場所であることを自覚してもらいたいと考えております。

一方で、今年度は寮生自身が主体的に寮の行事を企画・運営していることが目立ちます。このようなことは今までには余りなかったことで、教員が寮生に対して管理するための指示（命令）を出してばかりでなく、寮生が積極的に“より良い寮生活”のための寮運営に参加していることは新しい動きであり、今後もこうした寮生の主体性に期待したと思います。

入寮式

後援会長あいさつ

後援会長　大濵　安典

沖縄高専では、昨年９月２１日に創立１０周年記念式典が名護市民会館において盛大に行われ、沖縄高専創立当時からご苦労された学校関係者のご尽力により、素晴らしい校風と実績が確立されてきたのではないかと感じた式典でした。

「沖縄高専の学生は挨拶がきちんと出来る」とよく耳にしますが、これは、学校内の環境、教職員や先輩方の指導により、「挨拶」自体が社会に出るときに重要な「アイテム」と学生自身、理解が出来ているからではないでしょうか。

このような独自の校風を継承・発展させ、１０年、２０年後にふさわしい素晴らしい沖縄高専になることを期待しています。また、節目に私たち後援会も深くかかわられるよう今後に繋がればと思います。

さて、私たち保護者で組織されている後援会も諸先輩方々の意思を引き継ぎ、可能な限り学生に活躍の場を提供出来るよう様々な教育・研究活動や課外活動等を支援するとともに、会員相互の交流・連携を図ることを目的に活動しています。

また、後援会は、８地区により構成された支部組織があり、それぞれ特色ある支部活動が行われております。

そのひとつを取り上げると、支部主催で企画、開催されている卒業生との意見交流会があります。学生の皆さんに将来へ対する具体的なイメージを持っていただきたいと考え、卒業生を招いて、プレゼン形式にて自身の進路決定までの経緯や就職・進学後の様子について話していただくイベントです。

当日は、在学生や会員に限らず沖縄高専に関心がある中学生や保護者など多くの方が参加できるよう工夫され、また、会員相互の交流の場ともなっており、今年度も開催に向けて各支部の理事を中心に企画が進められているところです。

ぜひ、本活動の趣旨にご賛同いただき、多くの会員の皆様の参加をお待ちしております。なお、詳細につきましては、各支部、もしくは後援会事務局までお問い合わせください。

入学式

事務部長あいさつ

事務部長　仲地　善則

今年で、高専勤務２カ年目になりました。

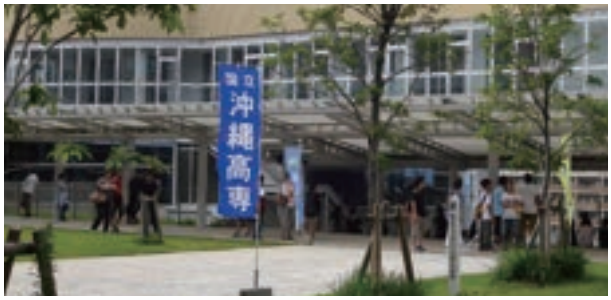
昨年は１０周年の年で、記念行事などが行われ保護者の皆様のご協力のもと無事記念式典が終わりました。どうもありがとうございました。

本校も１０年が過ぎましたが、志願者が設立当初から徐々に減少しております。本校が、今後も優秀な卒業生を輩出していくためには、優秀な学生の確保が不可欠です。

本校では志願者を増やす取り組みとしてオープンキャンパス、学校説明会、学校訪問等を行っております。

今年のオープンキャンパスは６月２９日土曜日に行われました。本校のオープンキャンパスの特徴は、中学３年生だけを対象としていないことです。中学生はもちろん小学生でも参加できる内容となっております。各学科とも学生が参加し、中学生や小学生に対して高専に進学すればこういうおもしろいことができるということをアピールします。今年は保護者を含めて約 1,000 人近くの方が来てくださるほど盛況でした。これが優秀な学生の確保に繋がることを期待しております。

今年は、寮のクーラーを更新（取替え）しております。男子寮は４月から始まり８月までには終わり、女子寮は９月中には完了する予定です。さらに快適な環境で勉学に励むことができるようになります。それに伴って、保護者にもリース料金等のご負担をおかけすることになりますが、よろしくお願いいたします。



オープンキャンパス 2014

学校説明会

第１学年主任より

第１学年主任　森田　正亮

入学当初は、親元を離れての寮生活や９０分授業など、中学校はもとより高等学校とも大きく異なる生活に戸惑うことの多かったと思われる一年生ですが、入学して三ヶ月が過ぎ、少しずつ学校生活に慣れてきているようです。辺野古という孤立した環境ではありますが、他校にはない、自由な雰囲気を楽しんでいる学生が多い様子です。

本校の自由な雰囲気、例えば服装や頭髪に関して特に制限がない、授業の開始・終了時にチャイムが鳴らず、各自で時間管理をする、といった点は、一期生入学時から引き継がれているものであり、これは本校のこれまでの学生たちが規則に縛られなくても自律的に行動できていた証しです。一年生には、このことをよく理解し、これを後の代まで引き継げるように行動してほしいと思います。

今年度の一年生は、ここまで見た限りでは遅刻や欠課が少なく、生活態度がきちんとしている学生が多いと思います。しかし、最近生活に慣れてきたためか、ぎりぎりに駆け込んでくる学生や、授業中に居眠りをする学生も散見されるようになりました。一般的に、後期に入ると生活習慣が乱れる学生が増えてきますが、そのようなことがないよう今一度、適度な緊張感を持って生活してほしいと思います。

また、後期に入ると成績に関する問題、つまり単位修得が危ぶまれる科目のある学生が出てきます。そのような学生には特に注意を払って面談や助言をしていきますが、ご家庭におかれましても注意いただければと思います。また、成績や学習態度について、お聞きになりたいことがございましたら、いつでも学級担任や学科担任にご相談ください。

今後とも、保護者の皆さま方のご支援とご協力をどうかよろしくお願い申し上げます。

入学式の様子

第２学年主任より

第２学年主任　名嘉山　リサ

４月に新入生が入学し、２年生が「先輩」になってから半年が過ぎようとしています。寮や部活などで後輩と接する中で「先輩」としての立場にも慣れてきたことでしょう。年度最初の大きな行事である体育祭では、新たなクラスメイトと協力しながら様々な競技に真剣に取り組み、楽しみながらクラスの団結を深めている様子がうかがえました。また、前期には内外から講師をお招きし、「カウンセラー講話」、「性に関する講演会」、「キャリア教育センター長講話」などを実施しました。より良い学生生活を送り、将来像を描くうえで参考になったようでした。

一方で、学期が進むにつれ、朝の遅刻や欠課、成績不振などが一部で目立つようになりました。学生生活を楽しむことも大事ですが、後期はもう少し緊張感・危機感を持って、日々過ごしてもらいたいと思います。

今後とも皆様方のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

学生寮避難訓練

中間試験対策講座

機械システム工学科

機械システム工学科長
眞喜志　隆

今年、沖縄高専は開学 11 年目を迎えます。これまでの 10 年は学校を作り、きちんと運営し、学生を教育し、社会へ送り出す仕組みを作ることが大きな目的でした。これからは、これまでを振り返り、学生諸君を、より社会に求められる人材として送り出すことが大きな目標となります。そのために新しい教育プログラムやカリキュラムの改編が始まっています。

さて、1 年生諸君はどのような想いを持って本校に入学したのでしょうか。高専は、普通高校とは違う考え方でカリキュラムが組まれており、中学校との違いに戸惑ったと思います。高専には生徒はいません、高専で学ぶ者は学生です。学生とは、自ら考えて行動し、勉学に励む者のことです。本校の設立の理念は「人々に信頼され、開拓精神あふれる技術者の育成」です。「開拓精神あふれる技術者」とはどのような存在なのか意識しながら勉学に励んでください。

機械システム工学科とは、どのようなことを学ぶ学科でしょうか。機械と名のつく学科で学ぶ範囲は非常に広いものがあり、モノを作るために必要なほとんどの分野を学びます。モノを作るときには、どのような材料で作ればいいのか、どのように加工すればいのか、どのように設計するのか、どのように動かすのか、どうやって制御するのか、これらを順序立てて、総合して学んでいくのが機械システム工学科です。かなり広い分野を学んでいくため、おそらくは一番勉強のきつい学科かもしれません。しかし、将来の進路も、広い分野に進んでいける可能性のある学科です。モノを作る（造る･創る）分野には、機械系の技術者が必ず必要になります。どのような分野にも進んでいけるのが機械システム工学科の強みです。

2 年生からは専門の講義も増え内容も深くなっていきます。わからないことをわからないままにしておかず、担当教員への質問等を通して、きちんと理解してください。3 年生では、はっきりとした形ではなくても構いませんから、将来の進路を意識した行動や情報を集めることを始めてください。4 年生からははっきりと進路を意識した活動が必要になります。本格的な進路活動は 4 年の後半から始まると言ってもいい状況です。その時に何も考えていないようでは、本当に苦労します。5 年生は進路活動と卒業研究に頑張ってください。高専での 5 年間は、15 歳から 20 歳という密度の濃い時間を過ごす期間です。皆さんは悔いのない高専生活を送ってください。

情報通信システム工学科

情報通信システム工学科長
比嘉　勝也

「まずは話してみること」

保護者の皆様へ。沖縄高専は今年で 11 年目を迎え、高専のさらなる飛躍のため、教職員および学生共々、日々努力しております。4 月には 11 期生を迎え、高専 5 年間または専攻科までの 7 年間の生活を始めたところです。また本科 5 年生および専攻科 2 年生の学生の皆さんは進路選択という人生の大きな岐路での奮闘を行っているところです。これからも学生が高専 5 年間で専門技術だけでなく自身の“何か”をつかんで伸ばして社会に羽ばたける様、学生･保護者･教職員がこれまで以上に連携して様々な問題に対応する必要があります。そのためには日頃のコミュニケーションが必要です。定期でなくとも、何かあれば連絡･相談“する”･“できる”環境を学生･保護者･教職員が作り上げ、それを使うことこそが問題解決の糸口なのです。

学生諸君へ。沖縄高専での平成 26 年度の学生生活も半分を過ぎようとしています。1 年生の皆さんは初めての寮生活や高専での勉学に慣れましたでしょうか？　高専は、普通高校と違い 1 年生から高度な専門科目を勉強します。1 年生では専門科目の割合は少なくその代わりに総合科目が多くなっていますが総合科目も専門科目を理解するために必要な基礎的な科目ですので、しっかりと 1 年生の時から基礎力としての総合科目を勉強してください。また 5 年間での高専生活を有意義に過ごすために勉強だけでなく課外活動や部活動などに積極的に参加することや、趣味の合う学生同士でサークル活動を自分たちで始めるのもよいかもしれません。

高専生活ではいろいろなことが起こります。楽しいことうれしいこと辛いこと、勉強のこと進路のことなど様々です。辛いときには我慢せず保護者や高専や小中学時代の友達先輩、高専の先生に“まずは話してみること”が解決の近道だと思っています。辛いことを一人だけで考え留めておくと、体や気分に不調が現れたりします。さらに人と会うことや講義を受けるのが辛くなることがあります。まずは話してみることです。どんなことでも構わないと思いますよ。悩んでいること以外でも構いません。話す人の中にはあなたが悩んでいることに気が付いている人が必ずいます。話してみれば様々なアドバイスがもらえると思います。その中には気持ちのすっきりするアドバイスがあるはずです。それらを参考にしてあなたがどのようにすれば良いかを考え、さらに話してください。慌てて結論を出す必要はありません。焦る必要もありません。話すことを繰り返すことで最善の方法が見つかると思います。話して納得がいかなければまた考えて話をして、決して自分だけで何かを決めてしまわないように。まずは周りのあなたを支えている誰かにまずは話してみましょう。

メディア情報工学科

メディア情報工学科長
正木　忠勝

本校の教育活動についてご理解ご協力を頂いている様々な方面の方々のご支援を受けて、昨年度、本校は設立 10 周年を迎えることができました。今年度からは新たな 10 年を作り出す最初の年として学科教員一同設立時の精神に立ち戻って教育活動をしております。

メディア情報工学科は設立時からコンピュータの応用技術をキーワードに社会から求められる技術者の育成に力を入れてきました。これまでの本学科の卒業生は IT 業界を中心とした企業で活躍しています。1 期生も入社 5 年目となり若手技術者の中核となりつつあるようです。また、本学科では近年のスマートフォンやタブレット端末の普及による社会のニーズに応えるために、今年度から 5 年配当科目の「オブジェクト指向言語」においてスマートフォンアプリ開発演習を始め、そのために実習用のタブレット端末を整備しました。これからも社会の変化に対応した教育の実現に向けて、教育内容の改善に努めて参ります。

また、本学科は学内での教育にとどまらず、全国レベルのコンテストへの参加や各種資格取得も積極的に奨励しています。昨年度も本学科の学生が、高専プロコンやパソコン甲子園において目覚ましい活躍をしてくれましたが、さらに今年 3 月に総務省の総合通信研究機構が主催する「起業家甲子園」に出場し、企業賞を受賞することができました。このコンテストは県内で開催されたビジネスコンテストに優勝を受けて出場権を獲得した大会です。今年度も様々なコンテストでの学生の活躍が期待されます。

さて、昨年は産業界の景気回復を受け卒業生の進路決定率が 100％でした。高専は就職率がいいと言われていますが 100％となったのは 2 期生以来 4 年ぶりの事でした。今年度は昨年度以上の景気の拡大を受け、就職希望者の内々定が 4 月 5 月の早い時期から出ています。今年度も進路決定率 100％を達成できるよう進路指導に力を入れて参ります。

これからも社会に求められる人材の育成に努めていきますので、メディア情報工学科の教育活動に変わらぬ意見をお願い申し上げます。

生物資源工学科

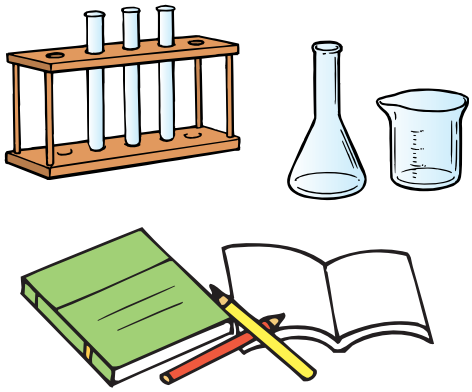
生物資源工学科長
池松　真也

お陰様で沖縄高専も本年度 11 年目のスタートをきることができました。

生物資源工学科も新しい 10 年をどのような人材育成にシフトしていくかが課題となります。今、高専機構は「グローバルな人材」育成を掲げています。奇しくも昨年本校にてご講演いただきました齋藤ウィリアム浩幸先生の新著のタイトルは「その考え方は、『世界標準』ですか？」です。グローバルに通用する高度な技術者を目指す上で、“世界標準” とは？と考えていくことは重要になります。一方で、海外に出た時に尋ねられることは「日本の文化は？」、「琉球王国の事を教えて下さい？」、「先生の研究と沖縄生物資源の接点は何ですか？」など非常に身近な事々です。実は、グローバルとローカルは表裏一体をなし、その両方を身につけることがグローバルな人材になるために求められているのかもしれません。

今年の 3 月の卒業生、修了生の就職率・進学率は各々 100％になりました。今年の 5 年生、専攻科 2 年生は就職希望者が多いのですが、競争も激しくなっており、厳しい状況の中で一生懸命頑張っています。同様に、4 年次に全員参加で実施されるインターンシップも全員の行き先を決定するのが厳しい中、多くの企業様の寛大なお心遣いにより、全員の実施が可能となりそうです。

世の中の動きが目まぐるしく、私達の学生時代とスピード感が全く異なっているように感じます。そのような中で、この流れに必死について行こうとして体調を悪くしてしまう学生もいるのではと心配になることがあります。第 16 代アメリカ合衆国大統領 Abraham Lincoln は次のような言葉を残しています。" I'm a slow walker , but I never walk back. " 歩くのはゆっくりで大丈夫です。しかし、自分の力で着実に前進していくことのできる人材を育成していきます。どうぞ、この 10 年も、皆様の変わらぬご指導とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



総合科学科

総合科学科長
星野　恵里子

所属学生０人なのに全員が学ぶ科目を開講する「総合科学科」について

これは６月28日に実施されたオープンキャンパスでの我が「総合科学科」のキャッチコピーです。学生は入学と同時に機械システム工学科、情報通信システム工学科、メディア情報工学科、生物資源工学科という四つの学科に所属し、各学科担任がつきます。最終学年の卒業研究はそれぞれの学科の指導教員の下になされ、これらの四つの学科は縦割りの学科なのです。では総合科学科はみなさんとどのようにかかわるか。まず、１，２年生では４つの学科を混合にしたクラス、混合学級が編成され、学科担任とは別に担任と副担任を総合科学科の教員が担当します。また低学年では総合科学科の教員が担当する授業が多くあるのも特徴です。

高専の学生は早くから専門的な学問を学ぶことができる、という利点がありますが、では専門的な学問以外の、高校生や大学生が学ぶいわゆる「一般教養」は学ばなくてもよいのでしょうか。確かに専門分野の科目は、皆さんの専門的な学問に直結していますからすぐに役に立つ、という感じがするでしょう。では総合科学科が開講する科目は…？

ところでみなさんは「暮らしの手帖」という雑誌をご存知でしょうか。この雑誌の特徴は、様々な商品の比較記事をニュートラルな立場から掲載することにありますが、その創設者にして初代編集長の花森安治さんは表紙裏に次のような言葉を記しました。「…せめて　どれか　もう一つ二つは / すぐには役に立たないように見えても / やがて　こころの底深く沈んで / いつか　あなたの暮らし方を変えてしまう…。」総合科学科の教員が担当するのは、まさにこの「専門分野とは直接関係がないように見えるが、学んだことは無意識の中に定着し、時間を経て経験を積むことで熟成し、実感となってくる」科目だといえるでしょう。

現在、総合科学科の教員数は18名です。内訳は文科系（英語６名、国語２名、社会１名）、理科系（数学５、物理学１名、地学１名）、体育系（健康科学２名）で、そのうち女性教員は８名という、男性教員が大半を占める全国高専の現状にあって、非常に画期的ともいえる男女比になっています。この教員たちにも当然ながら専門分野があり、それは専門学科の教員とはまた異なった趣があります。ですから、専門の勉強に疲れたら、総合科学科の教員の研究室の扉をたたいてみるといいでしょう。また別の刺激をもらえること間違いなしです。なぜならば、我々教員の本棚はまさに「知の宝石箱」なのですから。

専攻科長あいさつ

専攻科長
兼城　千波

沖縄高専の専攻科は４つの教育目標；

(1) 知識を融合する能力を持った実践的技術者を育成する
(2) 創造力を備え、自ら創造したものを表現できる人材を育成する
(3) 専門知識をもとにした応用力を持ち、自ら成長できる人材を育成する
(4) 地球的視野と倫理観を備え、社会に貢献できる人材を育成する

を掲げ、１専攻４コース「機械システム工学コース」、「電子通信システム工学コース」、「情報工学コース」、「生物資源工学コース」として設立しました。平成21年４月に第１期生を迎え、平成26年３月までに４期、述べ107名の卒業生を輩出いたしました。今年も23名の学生全員が学位授与審査を経て、学士（工学）の学位が授与されております。これまでの卒業生は、名だたる企業や大学への進路を決定し、さまざまな分野で活躍していると報告を受けております。この平成26年３月に卒業した第４期生23名は、就職14名、進学９名となっており、就職・進学率とも100％を達成しております。

このような実績が積み上がっている背景には、本科５年・専攻科２年の合計７年間の一貫した教育指導があります。複合的・実践的かつ専門的カリキュラムを通じ、一貫した研究指導、PBL教育の積極的な導入、他学科との共同作業を実施し、複合的な専門性を備え、創造的実践的な課題解決型の技術者を育成することに努めております。

専攻科のメリットとしては、(1) より高度で専門的な知識・技術を修得できる、(2) 勉学における継続的視点から、時間的ロスが少ない、(3) 大学より学費が安い、(4) 本科から継続して学んでいるため、終了後の進路（就職・進学）の面で多岐にわたり内定率が高い、などが挙げられます。また、昨今ではグローバル人材の育成という観点から、高専機構をはじめ様々な機関から、海外インターンシップや語学研修の機会が提供されています。自らの目標を見定め、今自分に何が必要かを十分考えた上で、専攻科の皆さんには目の前にあるチャンスをしっかりと掴み取って欲しいと願っています。

本年度４月には32名の学生が志も新たに専攻科に入学いたしました。本年度以降に入学する学生は、より勉学に集中できる環境を整えるための方策として、就職活動のスケジュールや学位授与審査方法が変更になる方向で社会的にも動いております。世の中もいろいろ変化しています。臨機応変に対応できる力も学生の皆さんには求められています。

本科の学生の皆さんには、専攻科の利点をよく理解して頂き、志を高く専攻科に志願することを望んでいます。

■■■■5年目を迎えた技術者教育プログラム■■■■

評価対応委員長　姉崎　隆

沖縄高専では、各専門学科の本科４年生・５年生と専攻科１年生・２年生の計４年間の教育課程を利用して、技術者に必要な「技術力」、「創造・実践力」、「理解・表現力」を養成するための４つの技術者教育プログラム（機械システム工学プログラム、情報通信システム工学プログラム、メディア情報工学プログラム、生物資源工学プログラム）を設置しています。学位の審査に合格して学位記を授与され、専攻科各コースの課程を修了した学生は、本人の希望により各コースの定める技術者教育プログラムの修了生として修了認定されます。この技術者教育プログラムの設置は本校設立の計画段階から既に計画されていましたが、平成 24 年４月 27 日および平成 26 年３月３日に日本技術者教育認定機構（Japan Accreditation Board for Engineering: 通称 JABEE）から、４つの技術者教育プログラムの内容が社会の要求する知識や能力の水準を満たしていると認定されました。これにより、平成 23 年３月に修了した専攻科一期生に遡り、沖縄高専が、技術者教育プログラムの修了認定を毎年度行ってきています。

また、本校の技術者教育プログラムが JABEE によって認定・認証されたことは、単に専攻科修了生に対する認定証授与が可能になったことに留まりません。本校の教育の質の向上に関する取り組みが世界水準にあることを証明するものでもあります。

outcomes 評価、ルーブリック評価、エンジニアリングデザイン教育、教育の PDCA サイクル、これらは世界の大学教育で目標とされる、よりよい教育への取り組みであります。JABEE は、率先してこれを審査基準に組み込み、取り組みを推進してきました。JABEE 認定を活用した、教育の質の向上取り組みのよい証左であります。

評価対応委員会はこれからも、皆さんの協力を得て、JABEE 認定を活用した、教育の質の向上取り組みを推進する所存です。

中間審査結果（４プログラムいずれも認定）

教育福祉推進室より

教育福祉推進室長　西村 篤

平成２６年４月より「学生相談室」が「教育福祉推進室」に変わりました。学生の権利擁護のため、環境を改善・調整する役割を強化するために、組織が新しくなりました。カウンセリングルームを設け、従来通り、専門の相談員２名が交替で週４日カウンセリングを行います。保護者や教職員だけでも利用できます。相談の秘密は厳守します。カウンセリング予約は、保健室（電話：0980-55-4054、電子メール：hoken@okinawa-ct.ac.jp）に問い合わせるか、もしくは本校のウェブサイト http://www.okinawa-ct.ac.jp（トップページ＞教育･学生生活＞教育福祉推進室）をご覧下さい。

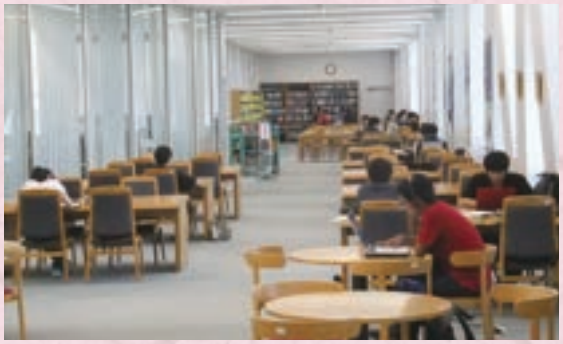
★夏季休業中もカウンセリングを実施しています。★

学生相談室内の様子

図書館より

図書館では情報学から工学、自然科学等の専門書を中心に、小説や視聴覚資料、学術雑誌と様々なジャンルの資料が所蔵されています。それらを上手に活用し、様々な考えや知識にふれ、楽しく有意義な生活を送ってほしいと願っています。

また、図書館は本校の学生・教職員だけでなく、一般の方々にも広く開放しています。やさしい英語でたくさん読む「多読」用の図書も現在約１万５千冊以上を所蔵しておりますので、英語の勉強をしたい方もどうぞお気軽にご利用ください。



図書館内の様子

○図書館の開館時間（http://www.okinawa-ct.ac.jp/toshokan/ も併せてご覧ください）
【通常期】平日 8:40 ～ 20:00　　土曜 9:00 ～ 17:00　　日曜・祝祭日：休館
【休業期】平日 8:40 ～ 17:00　　土日・祝祭日：休館
○座席数：108 席（延面積：740㎡）
○蔵書冊数：約 6 万 6 千冊（うち洋書約 2 万冊）、視聴覚資料 約 1,600 点
○雑誌：約 600 種（継続購入 90 誌）
○新聞：8 紙（うち英字新聞 2 紙）
○年間貸出冊数：41,735 冊（平成 25 年度実績）
○学外者への貸出：ご希望の方へ「利用証」を発行します。「図書館利用願」（図書館カウンターにて配布）へ必要事項を記入し、「身分証」を提示してください。

（図書館への連絡：直通 0980-55-4037）

保健室より

まだまだ暑い日が続きます、暑さに負けないよう夏を乗り越えましょう。夏のイメージが強い紫外線ですが、春頃から強くなり始め、秋まで続きます。紫外線は皮膚に様々な影響を及ぼします。必要以上に恐れることはありませんが、時には紫外線対策を行いましょう。紫外線は 1 日のうちで正午前後（10 時から 14 時）が最も強くなります。紫外線対策を行うことは、健やかな肌を保つための大切な生活習慣の一つです。

『紫外線対策として』

○帽子や日傘を利用する

○衣服で覆う

○日陰を利用する

○日焼け止めを使う

＊日焼け止めを塗る量は、顔ではクリームタイプならパール大、液状タイプなら 1 円玉大を目安に均一に塗り 2 ～ 3 時間おきに塗り直しておくと効果的です。

保健室はメディア棟 2 階にあり 2 人の看護師が変則で在室しています。
保健室では、傷病時の対応、学生定期健康診断、健康相談、健康診断証明書の発行、災害救済給付の手続きなど行っています。健康・悩み相談、雑談、身長・体重・血圧計もありますので気軽に保健室へ足を運んで下さい。又、保健室便りも不定期にメールで発信しますのでご覧下さい。
（看護師：髙江洲・安里）（TEL：0980-55-4054　e-mail：hoken@okinawa-ct.ac.jp）

地域連携推進センター活動紹介

沖縄高専では、地域連携推進センターを窓口として、本校の有する人的資源、知的資産、施設を活用して、地域社会との連携・交流の推進、共同研究等による技術開発、及び人材の育成に取り組んでいます。

年間事業としては、沖縄高専フォーラム・情報交換会、月１回の定期的な技術相談会・企業技術者等との懇談会の開催や共同研究、受託研究、受託試験、随時の技術相談の受け入れ、さらに、各種展示会への出展（沖縄の産業まつり、やんばるの産業まつり等）、知的財産セミナー等を実施しています。

また、地域社会との連携・交流の推進や教育・研究の充実ならびに人材育成に取り組んでおり、小中学校生を対象に沖縄高専の設備を利用した体験授業や、小中学校等での出前授業、公開講座・生涯学習講座等を実施し、沖縄高専の教育研究内容を地域へ発信しています。

やんばるの産業まつりの一コマ

ミニロボットフェスティバルの一コマ

中学生向け体験授業の一コマ

定期企業説明会の一コマ

キャリア教育センター活動紹介

沖縄高専キャリア教育センターは、学生のキャリア形成、学生・就職活動を支援することを目的として設置されています。キャリアアドバイザーによる個別面談、キャリア形成や就職・進路に関する各種セミナー等を通じて、学生のみなさんが、どのような進路があるかを知り、各自の進路を考え、決定していく過程のサポートを行っています。

キャリア教育センター相談窓口風景

本校で開催されたインターンシップ説明会・合同企業説明会

学生会より

平成26年度学生会執行委員会

会長あいさつ　平成26年度学生会長　宮城　渉

今年度の学生会会長を務める、機械システム工学科4年の宮城渉と申します。今年度の学生会は、組織という考えを取り払いひとつの「チーム」として学生会を運営したいと考えています。学生ひとりひとりが沖縄高専という大きなチームの一員として、互いの意見に耳を傾け、建設的に反応し、ときには問題点を指摘し、ときには成功を認め、切磋琢磨することで、よりよい学生生活をつくり上げることが出来ると考えたからです。今年度も新たな活動に挑戦し、先輩方がこれまで創りあげ引き継いできた伝統を進化させ、これまで以上に学生生活を盛り上げていけるような学校づくりを目指します。

体育祭

去る4月29日に、本校グラウンドで第9回体育祭が開催されました。毎年、新入生歓迎の意味も込めて行われている体育祭ですが、今年も日差しの中楽しい体育祭となりました。

高専祭

今年で第10回目を迎える高専祭。実行委員を中心に今年も準備が進められています。皆さまのご来場を心よりお待ちしております。

平成26年度学生会執行委員会役員

会長	宮城　渉
副会長	三原　祐介
	神村　和寿
総務局長	石川　真帆
広報局長	江川　達翔
風紀局長	新里　智樹
会計局超	山入端　泰志
渉外局長	玉城　光汰

寮生会より

男子寮長
機械システム工学科
４年次　川　満　　愼

平成 26 年度男子寮長を努めます川満愼です。昨年度より寮長の補佐として副寮長を務め今年度はその役職が一つ上がり、より重要な仕事に携わる機会が増えてその分やりがいも多くなっているものだと感じています。

この学生寮にいてよかった、寮が楽しい、そんな風に思ってもらえるような寮にしていくことが私自身の今年度の目標であります。そのためにはどうしたらよいのかを考えて、それを実行していくことができるよう努力していきます。

私自身、現在至らぬ点が多々ありますが、その度に指導寮生会を中心にその他の寮生会役員の助けをもらっていて、非常に感謝しております。執行部を合わせた寮生会役員一同、これからも精進して参ります。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

女子寮長
メディア情報工学科
４年次　照喜名 愛三里

平成 26 年度女子寮長の照喜名愛三里です。昨年度の９月から今年度の前期まで女子指導寮生長を務めておりました。今年度も寮生会で仕事を行います。さて、昨年沖縄高専と共に学生寮も 10 周年を迎えました。しかし、他の高専に比べると歴史も浅く寮の構成も大きく異なり色々大変です。

女子寮では今年度、寮生からの意見・要望を多く取りいれるため、女子寮各種委員会と協力して、寮生活の改善に力を入れています。現在ほんの僅かですが、その効果が表れています。

今後も寮生からの意見・要望を取り入れ、寮生１人１人が快適な寮生活を過ごせるように、寮生会一同協力し、頑張ります。皆さん、ご協力をよろしくお願い致します。

寮生会活動報告

４月 14 日に避難訓練を行いました。今年度は男女保安委員長、保健衛生委員長、指導寮生長らが協力し合い、避難経路図等にも力をいれ取り組みました。そのおかげで無事に避難訓練を終えることができました。

６月 28 日にはオープンキャンパスが行われました。学生寮では、中学生向けの寮見学ツアーを行い、たくさんの中学生が訪れました。オープンキャンパスの寮見学ツアーは企画広報委員会が中心となって運営しました。

体育祭
平成26年4月29日(火)

４月 29 日に本校グラウンドにて第９回体育祭が開催されました。

当日は、曇り空でしたが、綱引き、障害物リレー、他それぞれの競技に元気に参加しました。

高専祭
平成26年11月8日(土)～9日(日)

第 10 回を迎えることとなる高専祭。昨年 10 周年を迎えた沖縄高専、新たな 10 年にむけて、各学級ともにそれぞれの　持ち味をいかした楽しいイベントで開催します。

皆様のご来場お待しております。

留学生交流促進センター事業
平成 26 年度　英語による専門授業を終えて

機械システム工学科　比　嘉　吉　一

昨年度に引き続き，今年度（平成 26 年度）も「英語による専門授業」に採択され，スロベニア・マリボル大学・機械工学部より，ヴェセニャク・マテイ准教授 (Prof. Vesenjak, Matej) を招聘することができました．彼は，沖縄高専のみならず，大阪大学，熊本大学など数多くの訪日機会と当該機関での共同研究を行なっており，専門分野である大規模数値シミュレーション・計算固体力学分野で数多くの研究業績を有しています．本国では，学部学生向けに「静力学」「動力学」，大学院生向けに「数値シミュレーション」の講義・演習を行なっており，本学においてもこれらの経験を大いに披露してくれました．特に，昨年度「連続体力学」の講義にて「英語による専門授業」を経験していた専攻科 2 年機械システム工学コースの 7 名が受講する「数値シミュレーション II」において，より高度な授業内容で「英語による専門授業」を行なってもらい，英語によるコミュニケーションを含め，双方向での授業が実施されました．授業内容に関する理解度も，彼の自作によるチェックレポート（もちろん英語）にて提出を課しており，つりあい式，非線形性についての議論，ひずみ速度依存性材料変形等について回答を求めたレポートは，回答率 100% であり，受講生全学生の理解度が高かったことが伺えます．

図 1　数値シミュレーション II（専攻科 2 年機械システム工学コース）のようす

専攻科 1 年機械システム工学コースの学生向けには，「連続体力学」の講義を実施してもらいました．昨年度に比して実施時間数が取れなかったため，駆け足的に進んだが，本科で履修済の「材料力学」の知識から，一次元の「有限要素方程式」の導出とそれによる解析解が得られる一連のプロセスを体感させる内容となっていました。いずれの授業とも，専攻科学生向けの講義で少人数であったため実感したこととは思いますが，その都度，アイコンタクトと問いかけ（もちろん英語）をすることで，寝る暇を与えず，興味を引く授業進行を設計していた点に感心しました．学生にとっては，「英語」に対する「ある種」の抵抗感があるようでしたが，拙い英語でも積極的に話しかけたり，恥ずかしがらずに質問したりする機会を通じて，より英語力に対するモチベーションと継続的な学習意欲が高くなったものと（授業担当者としては）期待しているところです．今回の経験が，グローバルに活躍する本学卒業生の一助になることを祈念して筆を置きます．

図 2　連続体力学（専攻科 1 年機械システム工学コース）のようす

『高校生スピーチグランプリ2014　世界にはばたけ! うちなーSPIRIT』

準グランプリ獲得

情報通信システム工学科　知名　紗也加

2014 年 6 月 29 日（日）、沖縄県市町村自治会館において開催されました、【高校生スピーチグランプリ 2014　世界にはばたけ！うちなー SPIRIT】において、情報通信システム工学科 1 年 1 組知名　紗也加さんが、みごと準グランプリに輝きました。（グランプリ 1 名、準グランプリ 2 名、審査員特別賞 1 名）

「沖縄を世界の中心に、そのために自ら情報発信していきたい」という思いを、さわやかな、しかも力強いスピーチで表現し、会場いっぱいの大きな拍手とともに、審査員からの高い評価を受けました。

入賞者は、7 月 24 日（木）～ 7 月 28 日（月）の 5 日間、シンガポール研修旅行に派遣されることになりました。

宜野座村文化センターからまんホールとの連携事業

今年度も宜野座村文化センターがらまんホール様の御厚意により、特別授業と学内コンサートが実現しました。

５月９日（金）には「日本語・日本文化論」を履修している専攻科１年生がホールに伺い、文化事業や地域活性化に関するレクチャーを受けながら、様々な舞台機構を見学させて頂きました。

がらまんホール施設見学と小越友也氏によるレクチャー

また、７月 11 日（金）の夕方、一般の方々にも開放された「がらまんホールお出かけコンサート」が開催されました。南アフリカ・オランダ・イタリア・日本の国際色豊かなジャズカルテットのミニライブとトークで大いに盛り上がりました。

カルテットの皆様と小越氏には、沖縄高専オリジナルブランドの泡盛「香仙」をお贈りしました（専攻科１年の新川翔也君による英語版の解説文付）。

【a.s.k.feat Fabio Bottazzo】のステージ

左から　アマンダ･ティフィン氏（南アフリカ）、ファビオ･ボッタッツォ氏（イタリア）、松永誠剛氏（日本）、セバスティアン･カフテイン氏（オランダ）

第 25 回「伊藤園お～いお茶新俳句大賞」で、今年４年連続となる「優秀学校賞」を受賞しました。

今回の応募総数は 174 万句を超え、２千句のみ「入賞」となり、５名以上入賞者の出た学校のみ「優秀学校賞」が与えられます。全国で今年は 16 校でした (14 校は小中学校、１校は大学)。

入賞者・入選者は以下のとおりです。

入賞者

「都道府県賞」　渡嘉敷　愛　美 さん

「佳作特別賞」　仲　間　成　吾 君
池　原　　洋 君
伊　禮　颯　真 君
加　藤　克　也 君

入選者

「佳　　作」　安谷屋　卓　矢 君
與那覇　陽　女 さん
當　間　一　斗 君
稲　嶺　盛　郁 君
生　田　幸志郎 君
比　嘉　心　悟 君
仲　村　大　志 君
中　里　晟　也 君
金　城　徹　哉 君
仲宗根　舞　友 さん

名護市国際交流協会主催の第８回日本語弁論大会で最優秀賞を受賞しました

名護市国際交流協会主催の第８回日本語弁論大会が、2014 年７月 12 日（土）に 名護市国際交流会館において開催されました。本校からは、生物資源工学科４年のビリグト　ビリグサイハンさん (モンゴル）と機械システム工学科３年のサンニ　スジャトミコ　ハルタント君（インドネシア）の２名が参加し、「日本人の武器」というテーマでスピーチしたビリグト　ビリグサイハンさんが最優秀賞に輝きました。今回、司会を務めたメディア情報工学科５年のチョン・ケヴィン君 (インドネシア) に続き、２年連続で２度目の最優秀賞を受賞しました。

名護市国際交流会館にて受賞式後の３人。左から、チョン・ケヴィン君、ビリグト　ビリグサイハンさん、サンニ　スジャトミコ　ハルタント君

沖縄高専サマースクール 2014 開催

本校では、７月２６日（土）の平成２６年度サマースクールを開催しました。
サマースクールは、中学校３年生を対象に模擬授業を行うことで沖縄高専への理解を含め、進路選択の参考にしてもらうことを目的としているもので、今年度は、１７２名に参加していただきました。
当日は、一般科目（英語・数学・健康科学から１科目選択）の授業の後、４つの学科（機械システム工学科、情報通信システム工学科、メディア情報工学科、生物資源工学科）に分かれ、学科ごとに実験・実習等を含む授業が行なわれました。また、昼食時間には、同校レストランでの寮食体験を通じて、学生寮での生活の一端を体験していただきました。また、保護者を対象に、寮見学ツアーを行ないました。

数学 (一般科目) の授業

英語多読 (一般科目) の授業

健康科学 (一般科目) の授業

機械システム工学科の授業風景

情報通信システム工学科（専門実習）

メデイア情報工学科（専門実習）

生物資源工学科（専門実習）

オープンキャンパス参加者の推移について

６月２８日（土）に平成２６年度沖縄高専オープンキャンパスが開催されました。今年度は、天候にも恵まれ、過去最高となる９７７名の方々にご来場いただきました。
今年は、昨年と比べ多くの企画を用意いたしましたが、どの企画もたくさんの方々にお越しにいただき大盛況の様子でした。本校学生の生き生きとした姿に感動されたというご来場者の声などを聞き、教職員並びに学生一同うれしい限りです。
今後も地域経済や地域社会のニーズに的確に応えていける高等教育機関として、日々教育活動・研究活動に励んでまいります。

平成 21 年度　717 人【中学生 272、保護者 269、その他 176】
平成 22 年度　672 人【中学生 224、保護者 310、その他 138】
平成 23 年度　556 人【中学生 184、保護者 272、その他 100】
平成 24 年度　728 人【中学生 249、保護者 434、その他 45】
平成 25 年度　838 人【中学生 304、保護者 338、その他 196】
平成 26 年度　977 人【中学生 307、保護者等 502、小学生 168】

受付の様子

学校説明会

平成 26 年度　沖縄県高校総体の結果について

平成 26 年 5 月 10（土）～ 12 日（月）、5 月 24 日（土）～ 26 日（月）、5 月 30 日（金）～ 6 月 7 日（土）の期間中開催された「平成 26 年度沖縄県高校総体」において、本校からバスケットボール部、弓道部、ハンドボール部、サッカー部、テニス部、卓球部、陸上部、バドミントン部、自転車部が出場し、県内の各高校と対戦しました。

大会では各部ともに健闘し、日頃の練習の成果を存分に発揮することができました。

特に陸上部は男子 5000mW、男子走高跳において優秀な成績を収め，九州大会に出場いたしました。

平成 26 年度　沖縄県高校総体結果一覧

平成 26 年度沖縄県高等学校総合体育大会における本校の競技別の結果は以下のとおりでした。会場まで応援に来ていただいた保護者並びに関係者の皆様に感謝いたします。

競　技	競　技　結　果	
バスケットボール（男子）	1 回戦まで	
バスケットボール（女子）	2 回戦まで	
弓道（男子）	団体戦	予選落ち
	個人戦	予選落ち
弓道（女子）	団体戦	予選落ち
	個人戦	予選落ち
ハンドボール（男子）	1 回戦まで	
ハンドボール（女子）	1 回戦まで	
サッカー	1 回戦まで	
テニス（男子）	団体戦	3 回戦まで
	ダブルス	並里・荷川取　1 回戦まで，大城・古堅　2 回戦まで，松田・奥間　2 回戦まで
	シングルス	大城　2 回戦まで 木村　1 回戦まで
テニス（女子）	団体戦	3 回戦まで
	ダブルス	小濱夏実・徳田　3 回戦まで 武田・小濱ちひろ　1 回戦まで
	シングルス	小濱ちひろ　2 回戦まで 武田　2 回戦まで
卓球（男子）	団体戦	2 回戦 敗退
	ダブルス	渡慶次・玉城組 2 回戦敗退 古謝組 1 回戦敗退 泉川・高良組 1 回戦敗退
	シングルス	渡慶次 1 回戦敗退 玉城 3 回戦敗退 古謝良人 2 回戦敗退 古謝秀人 1 回戦敗退
卓球（女子）	シングルス	座間味 1 回戦敗退
陸上競技	―	男子 5000mW　八幡 決勝 2 位、男子走高跳　金城 決勝 4 位、宮城決勝 14 位 男子走幅跳　内間 決勝 29 位、男子三段跳　砂川決勝 12 位、男子 200m　砂川予選落ち
バドミントン（男子）	団体戦	2 回戦まで
	ダブルス	玉那覇・植竹　3 回戦まで 山城・屋嘉比　2 回戦まで
	シングルス	上原　2 回戦まで 木村　2 回戦まで
バドミントン（女子）	ダブルス	石川・比嘉　2 回戦まで
	シングルス	比嘉　1 回戦まで
自転車		青木　スプリント　5 位 1km タイムトライアル　9 位 4km 速度競争　予選落ち ロードレース　予選落ち

スナップ写真 高専体育大会

スナップ写真♪ 体育祭

平成 26 年度　全九州高校総体結果一覧

平成26年度全九州高等学校総合体育大会陸上競技における結果は以下のとおりでした。保護者並びに関係者の皆様に感謝いたします。

競　技　種　目	競　　技　　結　　果
陸上部	男男子 5000mW　八幡　決勝８位　　男子走高跳　金城　決勝 18 位

平成 26 年度　九州沖縄地区高等専門学校体育大会の結果について

平成２６年７月１１日（金）～１２日（土），１８日（金）～２０日（日）の期間中開催された「平成２６年度九州沖縄地区高等専門学校体育大会」において、本校から弓道部，テニス部、バスケットボール部，ハンドボール部，水泳部，硬式野球部，卓球部，男子バレーボール部、サッカー部及びバドミントン部が出場し，九州地区の各高専と対戦しました。

大会では各部ともに健闘し、日頃の練習の成果を存分に発揮することができました。特に女子バスケットボール部、弓道部（男子個人の部）、テニス部（女子ダブルス）は優勝、水泳部（男子）は 800 m自由形で第三位，という優秀な成績を収め、全国大会に出場する運びとなりました。

また、全国大会への出場が決定した各団体の校長報告会が７月２９日（火）に行われ、出場選手から全国大会へ向けた抱負が述べられたほか、校長から選手たちに対し、有意義な大会となるようベストを尽くして欲しい旨、激励の言葉がありました。最後は出場選手全員で記念撮影を行い、校長報告会は終始和やかなムードで締めくくられました。

競　技　種　目	競　　技　　結　　果	備　　考
弓道	男子団体８位、女子団体５位 男子個人　山城　優勝	全国大会出場 男子個人　山城
テニス（男子）	男子団体２回戦敗退 個人戦 （シングル）　　（ダブルス） 大城 ３回戦敗退　　宇良・新井ペア ３回戦敗退 新井 ３回戦敗退　　大城・酒井ペア ３回戦敗退 松田 １回戦敗退　　松田・奥間ペア ３回戦敗退 澤岻 １回戦敗退	
テニス（女子）	女子団体戦３位 個人戦 （シングル）　　（ダブルス） 小濱 ちひろ ３位　　小濱夏実・ちひろペア 優勝 原田 １回戦敗退　　原田・永山ペア １回戦敗退	全国大会出場 女子ダブルス 小濱夏実・小濱ちなつペア
男子バスケットボール	予選リーグ敗退 沖縄６７－９５熊本（八代） 沖縄３７－８７佐世保	
女子バスケットボール	予選リーグ　　決勝トーナメント 沖縄６９－３５都城　　沖縄５６－３３熊本（熊本） 沖縄６４－２１大分　　沖縄３９－３４有明（優勝）	全国大会出場 （4 年連続　7 回目）
バドミントン男子	男子団体戦：ベスト８　　男子シングルス：ベスト３２　　男子ダブルス　：ベスト１６	
バドミントン女子	女子団体戦：不参加　　女子シングルス：１回戦敗退　　女子ダブルス　：１回戦敗退	
ハンドボール男子	予選リーグ A ブロック（予選敗退）　　沖縄 19-28 有明　　沖縄 16-24 熊本	
ハンドボール女子	オープン戦　敗退　　有明 26-7 沖縄	
卓球部	男子団体　予選リーグ敗退 沖縄 1-3 鹿児島、沖縄 1-3 熊本（八代） 男子シングル　１回戦敗退　泉川、古謝勇、奥間 ２回戦敗退　吉田、渡慶次、玉城、古謝良、古謝秀 男子ダブルス　１回戦敗退　渡慶次・玉城、　古謝良・古謝秀 女子団体　１回戦敗退　沖縄０－２大分 女子シングル　１回戦敗退　國吉、西芽 ベスト８　町田 女子ダブルス　１回戦敗退　國吉・西芽	
硬式野球	トーナメント１回戦敗退　沖縄５－６有明	
水泳（男子）	島袋 男子 800m 自由形 ３位　　宮里 男子 100m 背泳ぎ　８位入賞	全国大会出場 島袋　男子 800m 自由形
水泳（女子）	中野　100m 平泳ぎ　８位入賞 金城　100m 平泳ぎ　３位 濱元　50m バタフライ　３位・100m 自由形 ３位 女子　200m リレー　６位入賞	
バレーボール（男子）	予選　A ブロック 沖縄ー熊本（八代）　沖縄ー鹿児島 ２５－１３　９－２５ ２５－１６　１４－２５ ブロック順位２位にて決勝トーナメント進出 決勝トーナメント １回戦　沖縄ー佐世保 ２２－２５ ２０－２５　１回戦敗退	
サッカー（男子）	トーナメント１回戦敗退　沖縄０－３都城（宮崎）	

平成 26 年度人事異動について

＜４月１日付け異動＞

【採　用】総合科学科
講　師　吉居　啓輔
総合科学科
講　師　吉井　りさ
情報通信システム工学科
助　教　宮城　桂
技術室
技術職員　儀保　健太
【再雇用】メディア情報工学科
特任教授　角田　正豊
【転　入】総合科学科
准教授（昇任）　渡利　正弘
学生課
課　長　野口　修
総務課
主任（昇任）　城間　義尚
総務課
一般職員　上江洲　敦
学生課
一般職員　宮平　憲太
【昇　任】機械システム工学科
教　授　比嘉　吉一
メディア情報工学科
准教授　バイティガ・ザカリ
総務課総務係
主　任　比嘉　信
総務課図書係
主　任　新里　牧
学生課学生係
主　任　比嘉　道也
学生課寮務係
主　任　與那嶺　岳也
【配置換】総務課
一般職員　前田　恵里奈

＜６月１日付け異動＞

【昇　任】メディア情報工学科
准教授　佐藤　尚

＜７月１日付け異動＞

【採　用】機械システム工学科
教　授　富澤　淳
【転　入】総務課
課長補佐（研究連携）　伊波　俊雄
総務課契約管理係
係　長　仲宗根　明
総務課施設係
係　長　石川　清史
学生課学生係
係　長　渡嘉敷　由紀子
学生課
一般職員　佐久真　亮

■ 平成 26 年度（後期）行事予定表 ■

10 月

1	水	消防訓練（仮）
2	木	
3	金	
4	土	県総体新人大会（テニス） 進学相談会（沖縄高専）
5	日	県総体新人大会（弓道）
6	月	
7	火	
8	水	
9	木	
10	金	
11	土	
12	日	
13	月	体育の日
14	火	
15	水	学生寮月例大掃除
16	木	よろず相談会（予定）
17	金	
18	土	全国高専プログラミングコンテスト
19	日	ロボコン九州沖縄地区大会（都城）
20	月	TOEIC IP テスト（3 年生）
21	火	TOEIC IP テスト（4 年生）
22	水	歌うま！決定戦（学生会主催）
23	木	月曜日の授業 第 3 回定期学生会会議 TOEIC IP テスト（5 年）
24	金	
25	土	県総体新人大会（バスケット：宮古） （自転車） 地域清掃（学生会主催）
26	日	
27	月	
28	火	
29	水	
30	木	
31	金	
備考		・開寮　9 月 21 日 ・開寮式　9 月 2 3 日 ・後学期授業開始　9 月 2 4 日 ・ビジネスマナー講習会（3 年生） ・インターンシップ報告会（4 年生）

11 月

1	土	県高校新人体育大会
2	日	
3	月	文化の日
4	火	
5	水	月曜日の授業
6	木	
7	金	臨時休業日
8	土	高専祭　パソコン甲子園 学校説明会（高専祭）（予定）
9	日	学校説明会（高専祭）（予定）
10	月	臨時休業日
11	火	
12	水	キャリア講演会（2 年生） 学生寮月例大掃除
13	木	
14	金	
15	土	
16	日	
17	月	
18	火	予備日
19	水	後学期中間試験 （複数同時実施科目）
20	木	
21	金	後学期中間試験
22	土	勤労感謝の日
23	日	ロボットコンテスト全国大会
24	月	
25	火	
26	水	
27	木	
28	金	月曜日の授業
29	土	
30	日	
備考		・沖縄高専フォーラム（予定） ・ブックハンティング（学生会図書委員イベント）

12 月

1	月	
2	火	予備日
3	水	研修旅行（3 年） 予備日
4	木	予備日
5	金	
6	土	
7	日	
8	月	推薦及び専門実習選抜願書受付
9	火	
10	水	キャリア講演会（1 年） スポーツフェスタ（学生会主催）
11	木	
12	金	
13	土	
14	日	学位授与試験（小論文）
15	月	
16	火	
17	水	キャリア講演会（2 年生） 5 年生を送る会（学生会主催）（予定）
18	木	
19	金	専門実習による選抜（一次選抜）結果通知
20	土	
21	日	
22	月	
23	火	天皇誕生日
24	水	学生寮居室点検・清掃
25	木	
26	金	冬季休業 冬季一斉休業　閉寮式
27	土	閉寮
28	日	完全閉寮
29	月	年末休日
30	火	年末休日
31	水	年末休日
備考		・ツーデーマーチ（学生会） ・校内美化清掃（学生会主催） ・冬の寮祭（寮生会）

1 月

1	木	元旦
2	金	年始の休日
3	土	年始の休日
4	日	開寮
5	月	開寮式
6	火	
7	水	
8	木	
9	金	
10	土	本科推薦選抜試験
11	日	
12	月	成人の日
13	火	
14	水	
15	木	学習到達度試験（3 年） 予備日
16	金	推薦選抜判定結果通知
17	土	本科専門実習選抜試験 県総体新人大会（サッカー） 1/17 ～ 19,22 ～ 24
18	日	
19	月	
20	火	パフォーマンス大会（学生会主催）
21	水	学生寮月例大掃除
22	木	県総体新人大会（サッカー）
23	金	専門実習選抜判定結果通知 推薦選抜確約書提出期限
24	土	
25	日	
26	月	学力及び帰国子女選抜願書受付
27	火	
28	水	
29	木	
30	金	専門実習選抜確約書提出期限
31	土	
備考		

2 月

1	日	
2	月	
3	火	木曜日の授業
4	水	金曜日の授業
5	木	専攻科後学期期末試験 予備日（本科 1 年～ 4 年）
6	金	本科 5 年後学期末試験
7	土	
8	日	
9	月	専攻科試験返却日
10	火	校長講話（新専攻科 1 年生）
11	水	建国記念の日
12	木	本科 5 年試験返却日 本科 1 年～ 4 年期末試験
13	金	
14	土	
15	日	本科学力及び帰国子女選抜試験
16	月	臨時休業日
17	火	臨時休業日
18	水	本科 1 年～ 4 年期末試験
19	木	学位授与機構へ専攻科単位取得証明書送付期限
20	金	1 年～ 4 年試験返却日 追認試験実施期間 本科学力選抜及び帰国子女選抜試験判定結果通知
21	土	
22	日	
23	月	専攻科オリエンティション 校長講話（4 年生）
24	火	1 年生校長講話 第 4 回学生会総会
25	水	学生寮居住施設点検・清掃
26	木	終業式
27	金	閉寮式 学力選抜確約書提出期限
28	土	閉寮 臨時休業日
備考		・構内美化清掃（学生会主催） ・離職防止セミナー（5 年生、第 2 年生）

3 月

1	日	完全閉寮
2	月	追認試験実施期間（5 年）
3	火	
4	水	
5	木	入学説明会 追認試験実施期間（3･4年）
6	金	
7	土	
8	日	
9	月	
10	火	
11	水	
12	木	
13	金	
14	土	卒業式 専攻科修了式
15	日	
16	月	
17	火	
18	水	
19	木	
20	金	
21	土	春分の日
22	日	
23	月	
24	火	学年末休業
25	水	
26	木	
27	金	
28	土	
29	日	
30	月	
31	火	
備考		

教務系行事　学生系行事　学生寮行事　学生会行事